

28.11.24

山 道 栗
高 等 学 校

栗高さつぽろ会

会報 第十八号
発行 栗高さつぽろ会
編集 幹事(事務担当) 平野 博昭
電話 〇一一七七一八五八
題字 山田 進 (太虚・三一卒) 揮毫

平成二十八年度総会・懇親会開催

久し振りの再会を喜び

和やかな同窓の集い

恒例の栗高さつぽろ会平成二十八年度(第二十三回)総会・懇親会を、去る九月三日(土)午後六時から札幌すみれホテルにおいて開催いたしました。

今年度も、栗高同窓会本部・栗山町及び学校長の出席を頂き、母校に思いをはせ和やかな中で、親睦・交流が一層深まった集いとなりました。

総会は定刻の六時に開会、司会進行の関幹事(四七卒)から、現在の会員数303名・恩師24名、及び本日の出席数69名(会員64名、恩師1名、来賓2名、栗高同窓会2名)を報告し、続いてこの一年間に亡くなられた会員・恩師8名の「冥福をお祈りするため、全員起立し黙祷を行いました」。

開会に当たり、山崎会長(三四卒)から挨拶があり、引き続き、来賓として栗高同窓会(本部)の本田諭会長様(四一卒)、栗高の塩崎学校長様、栗山町の片山伸治総務課長様(五六卒)からそれぞれ「挨拶

をいただきました。(いずれも挨拶の概要は別掲)

そして、来賓として恩師の三好泰宏様、栗高同窓会(本部)の副会長である月輪淳裕様(四七卒)をそれぞれご紹介しました。

議事に入り、慣例により司会担当の荒川幹事(三八卒)が議長を務めることで了承を得て、さつそく報告・議事事項を事務局の平野幹事(三五卒)から一括説明、併せて中西会計監事(四五卒)から会計決算の監査報告があり、その結果、報告「平成二十七年度事業報告及び会計収支決算報告」、及び議案「平成二十八年度事業計画および会計収支予算」並び



総会の様子



総会の様子

に議案「役員改選」については、いずれも拍手をもって承認・可決されました。

その中で主なものとして、一つは、隔年発行の「会員名簿」を、今年度発行すること。二つは、役員改選について、新役員として、会長は谷口様(三五卒)、副会長では正重様(二九卒)、理事では福田様(三五卒)・羽生様(三六卒)、会計監事では小笠原様(三八卒)を、そして、その他の役員は再任ということで選出されました。(役員の氏名等は別掲)

ここで、新会長の谷口様から挨拶を頂き、新しい役員三名を紹介し、総会は終了となりました。

さつそく懇親会に入り、初めに出席者全員起立し校歌を斉唱し、いよいよ交流のつどいがスタート。

乾杯の音頭を、今年も出席を頂いた恩師の三好先生にお願いし、元気なご発声に併せて全員が「乾杯」で高らかに杯を交わしました。

(谷口新会長と三好先生の「挨拶は別掲」)

懇親会
抽選の様子



会場は、久し振りの再会を喜び、飲み物や料理を前にして会話に花が咲き、しばらくは和やかな雰囲気包まれ会場は盛り上がり、楽しい時間が流れていきました。

恒例の抽選会が始まり、景品は幹事が栗山町へ向き、お酒や栗まんじゅうなど出席者に喜んでいただくこと、色々な特産品を用意しました。

抽選人は、来賓・役員などをお願いし、番号を女性幹事が読み上げると、早速各席から当選の歓声が上がり、景品を手にし会場は一層盛り上がりしました。

続いて、カラオケに入り、今年ものに自慢の自称歌手(?)が壇上で得意の歌を披露し、各席から多くの

声援や拍手が起こり、予定の時間がオーバーするほどとなりました。

閉めの乾杯は、会員最高齢の亀岡顧問(二七卒)にお願いし、挨拶の中で、小原道城さん(三三卒)が開館している「小原道城書道美術館」を紹介、そして「一年後の再会を期待し、併せて栗高の発展とさつぽろ会の皆さんの健康を祈念し」杯を交わし、懇親会は閉会となりました。

会員も高齢化が進んでおりますが、来年も息災で再会を楽しみに、そして多くの参加を望んでおります。

また、会員の新規加入の勧誘に、皆様のご理解とご協力を重ねてお願い致します。



恩師三好先生による
始めの乾杯

会員全員の
締め乾杯



本部同窓生の紹介
47年卒の月輪様



亀岡顧問(27年卒)
による締め乾杯



総会における各氏の挨拶

(紙面の関係で一部割愛させていただきました。)

◎ 山崎会長(三四卒)

北海道に台風の大きな被害

一日も早い復興を願って

皆さん、お晩でございます。一年振りの再会でございます。皆様ご健勝で何よりでございます。

お忙しい中、栗高同窓会の本田会長様・月輪副会長様、栗高から塩崎校長先生、栗山町から片山総務課長様のご臨席を賜りまして、本当に有難う御座います。

昨年を振り返りますと、一〇月が衆議院選挙、又、今年の七月は参議院選挙という状況で、今の政権与党が圧倒的勝利という形で、新アベノミックスの三本の矢によりいろいろ経済政策をとっておりますが、今ひとつパットしない経済状況の中、新しい年を迎えております。

山崎会長挨拶



いずれにしても、二月にはマイナス金利と今までにやったことのない政策は、はたして効果があるのか疑問に思っております。それが証拠に、円高傾向、今は101円か102円ぐらいで、これも日本経済に大きな影響を与えているのではないかと思います。

また、八月には台風7号・11号・9号が北海道に上陸し、10号が北海道と東北の岩手あたりを直撃しました。四つの台風が北海道に上陸したということは、今までにないわけであり、各地に大きな被害をもたらしており、又尊い人命が失われた方々には心よりご冥福をお祈りいたします。さらに、北海道・岩手において、田畑・家屋などに甚大な被害を与えており、被害を受けられた方々に対しては心よりお見舞い申し上げます。

こんな暗い話ばかりでは御座いませぬ。今年八月のリオオリンピックでは、日本の選手団が非常に頑張つて、金・銀・銅併せて41個と過去最高のメダルの数ということで、非常に明るい話題ではないかと思っております。又、栗山町にゆかりのある北海道日本ハムファイターズ、今パリーグの方で熾烈な優勝争いをしており、現在1・5の差であります。是非リーグ優勝して頂きたいと願っています。いずれにしても、北海道に大きな被害がございましたが、一日も早い復興を祈念いたしまして、私の挨拶に代えさせていただきます。

本田同窓会長
の挨拶

◎ 本田同窓会長(四一卒)

栗山は秋の収穫が始まったところです

残暑厳しい秋を迎えております。皆様方、お体の方はどうでしょうか。暑い暑いと言う挨拶の中で、毎日を過ごしている気がしております。

本日は、私達をご案内いただきまして心から厚く御礼を申し上げる次第であります。

こういう季節になりますと、いろいろ行事が重なって、本来ならばもっと多くこの席に出席したかったのですが、それぞれ事情がございまして申し訳ございません。

先程、会長様からいろいろお話がありました。

非常に多くの台風が来ましたが、栗山の方はお陰様で被害が少なく、秋の収穫に向かって、今仕事が始まったところです。玉ねぎ・いもに関しましては、暑かったためひよつとした影響を受けるのではないかと、そんな感じをしております。又、水稲に関しては、昨年が続いて良い傾向に進んでおります。

(次頁へ続く)

どうか皆さんのお口に、又、美味しいお米が入ればと思っております。

今日は、皆さんのお元氣なお姿を拝見し、続けているさつぼろ会と新しい関係のある私達は、大変嬉しく思っております。今日の総会が盛会でありますことをご祈念申し上げます。又、皆様のご健康を心から願って、一言簡単でございますがご挨拶に代えさせていただきます。

◎ 塩崎学校長

地元の普通科高校として

「未来の自分を栗山で」

お晩でございます。今、紹介にあずかりました栗山高校の校長をしております塩崎です。昨年も呼んで頂きまして大変嬉しく思っています。

栗山高校に来て二年になりますが、学校の歴史、これは道内でも有数の歴史があつて、前進の裁縫学校・女学校を含めると、ほぼ100年になる学校です。

私も、会議室に入りますと、歴代の校長先生の写真がありまして、そうそうたるメンバーがいる中で、こういう所に校長として来れることを、非常に光栄に思っております。

今回もご案内を頂きまして、これは是非出て、今までの歴史と伝統をつくつてくれた先輩方に、これ

を云わなきゃならないという風に思つて、駆け付けてまいりました。

まず、学校を紹介させて頂きます。持つて来た資料をご覧いただければ、大体概要はわかると思いますが、いくつかいつまんで説明します。

会場にポスターを10枚程貼らせて頂きました。昨年から学校の紹介ポスターとしてつくっているものです。今年は生徒の顔を見せようということので、写真をいっぱい載せたんですが、担当の人がひとつ張り忘れたわけではないんですが、左上の二番目の所に白い空欄があります。パンフレットにもありますが、右下の所に一言書いてある言葉があります。「未来の自分を栗山で」是非本校に入つて、その空いている所に「自分の思い出の写真を貼つてくれ」という意味でございます。

今年になつて各学年二間口で6学級という、こんなに増えた学校になつてしまいました。

塩崎学校長の挨拶



しかし、地元の普通科として、長くこれからも頑張つていかなければならない学校であると自負しておりますので、この辺も踏まえて学校としては、何とかやつていかなければなりません。

それから、昨年からは始めた小・中・高一貫のふるさとキャリア教育、これは北海道教委でも学力向上とこの事業の二本立てで押しているものです。

過日も、地域未来づくり会議を行い、地元の業者・企業・小学校・中学校、そういった人20名程を呼んで、本校のキャリア教育、要するに人材育成のためにいろんなアイデアを出して、今進めているところです。今年六月二十八日に、富士大学(岩手県)と連携協定を結びました。これも高・大の一貫として、これから大学との連携を深めて、子供たちの行く末を踏まえた教育をしていきたいと考えております。

学校のホームページを昨年九月二十五日全面リニューアルして掲示しておりますので、是非一度ご覧になつて下さい。一年経つて、6万のアクセスがあり、一日だいたい200ぐらいのアクセスがあります。多くの人が本校を理解して見てくれているのだなと思っております。

ぜひ近くに来られました折には学校の方に、校長室を空けておりますので、OBなんだという顔をして入つて頂ければ大変有り難いと思います。今日は、こういうOBの席に呼んで頂き大変有難うございます。

◎ 片山栗山町総務課長

各種事業に取り組んでおり

皆様のご支援とご協力を

皆さんこんにちは。

今、ご紹介いただきました栗山町総務課長の片山と申します。

本来ですと、町長がこの場に来て皆様にご挨拶を申し上げるべきところですが、ほかに所用がございましたので、私が代わってご挨拶を申し上げます。

本日は、平成二十八年度の栗高さつぼろ会の総会・懇親会が、このような大勢の会員の中で、盛会に開催されますことを、先ずもってお祝いを申し上げます。又、それぞれの会員の皆様におかれましては、本町へのさまざまなご支援・ご鞭撻を戴いておりますことに對しましても、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

片山総務課長の挨拶



私は、昭和五十六年卒業の栗高生でございます。角田に生まれまして、角田小学校・栗山中学校、そして栗山高校、その後札幌の方へ出ておりましたが、栗山町役場に戻ってくるのが出来まして、今年で栗山に住んで五十年になります。

さて、栗山町の最近の話題について、少しお話をさせて頂きたいと思いますが、栗山町は、開拓の跡が下ろされてから今年で128年目となりました。あと二年で130年の節目となります。

この間、人口も増減してきましたが、一番多いのが昭和三十八年の24,572人でした。今年はと云いますと、今現在約12,370人、一番多い時と比べて約半分ということになっております。

こういう中で、町といたしましては、いろいろ事業に取り組んでいるところでございます。

最近の話題としては、地域おこし協力隊というのがございます。ほかの町でも取組んでおりますが、栗山町では、首都圏の東京・神奈川・栃木、そして札幌市内からも来ていただいております。十三人の方が栗山町に2年ないし3年間来て頂いて、農業支援や自然環境教育の支援であるとか、今一番力を入れて進めております。ふるさと納税の支援、移住・定住の支援などに、若い力や目といいますか、外部から来た目を持って栗山町の活性化のために力を注いでおります。

ふるさと納税については、昨年もこの場でお話をさせて頂きました。

平成二十六年は約一億二千万円です。一年間で集まった金額では、全道で二番目、三番目という状況です。平成二十七年末では、一億三千八百万円ということ、さらに多くなっておりますし、今年は八月十五日現在で、一億一千七百万円までいっておりますので、確実に昨年を上回るのかなと思っております。大切な浄財を戴いておりますので、いろいろ子供達のため、福祉の向上のため、使って参りたいと思っております。

又、栗山町ということで、栗を使った商品開発をしており、今年の一月大丸札幌において、岐阜県の恵那市のお菓子屋さんの協力を得まして、栗山町産の栗を使った渋皮煮を販売させて頂きました。まだ量が取れないので一個あたりのコストも高いですけど、だんだん増やしていっていろんな商品開発をして、どんどん広めていきたいと思っております。

いろいろと事業をやっておりますけれども、これもいろんな方々のご協力があるのだと思います。

皆様におかれまして、今後とも栗山の方に引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、栗高さつぼろ会の方々のご発展と今日お集まりの皆様の健康をご祈念申し上げます。皆様とさせていただきます。大変おめでとうございます。



◎ 谷口新会長の挨拶

皆さんこんばんは。今、紹介いただきました、三十五年卒の谷口でございます。

この会につきましては、林先生の要望がありまして、私共三十五年卒が中心になって始めた会でございます。亀岡先生に会長になって頂きまして、もう 23 回ということになりました。年々私共も高齢者になって参りましたが、何人かづつ仲間が減っていく状態で大変だなと思っております。

若い方が参加できるよう、何かいい方法がありまして、私共が参加できれば、それに沿って進めて参りたいと思います。

これから私は、会長をやるということでございますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

谷口新会長の挨拶



◎ 三好先生の乾杯の挨拶

只今、恩師ということで紹介されましたけれども、お世話になった教員として、その代表ということで、ご挨拶をさせていただきます。

名簿の中に二十五名の教師が登録されていますが、その中で、市内に住居を持っている方が九名、そして私よりも先輩の先生が五名、私は三十四年から三十六年まで、非常に短いのですが二年間栗高にお世話になりました。

今から五十八年前、その頃の栗山高校の印象としては、普通科 4 クラス、家庭科 1 クラス、夜間定時制 1 クラス、農業定時制 1 クラスあり、非常に活気のある学校であり、町でした。

昭和三十四年に 6 名の新任教員として採用になったわけですが、ここで一つだけ紹介することは、丁度その頃、学校祭か体育祭にクラス対抗駅伝大会がありまして、教員も参加すれという校長命令で、新卒 6 名がまず選手になって、10 名編成で 4 名足りないの、何とか先輩の先生 2 名にお願いし、残り 2 名を私ともう 1 人金丸先生が二区間走るということで参加しました。

生徒も元気がありましたが、新卒の 6 名も元気がありまして、何と優勝するという頑張りをさせて頂きました。

先程、校長先生から二間口になったという事を聞いて、どうしてそんなに数が減ったのかというと、

それは栗山ばかりでなくて、どこの市町村の学校も間口が減っております。数が少なくなったと言いますが、内容で元気な活気のある学校になつていくことを、校長先生よろしくお願い致します。

それでは、参会者の皆様の今後のご健勝とご多幸を祈念して乾杯をしたいと思います。



◇ 栗高同窓会東京支部からのメッセイジ

◎ 桂 正洋 栗高同窓会東京支部会長

(三十七年卒)

本年度総会・懇親会の開催を心よりお喜び申し上げます。

多くの仲間が集い、楽しいひと時を過ごされることと存じます。さつぽろ会の益々のご隆盛を祈念いたします。

◎ 奥田芳博 栗高同窓会東京支部副会長

(四十四年卒)

栗高さつぽろ会の益々のご発展をお祈りします。

(2) 平成 27 年度会計収支決算報告

收入

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
1. 年 会 費	225,000 円	210,688 円	会員 延べ 205 名
2. 出席者会費	527,000	377,000	役員会 22 名 77,000 円 総会 60 名 300,000 円
3. 寄 付 金	20,000	30,000	総会来賓 4 名 25,000 円 恩師 1 名 5,000 円
4. 補 助 金	0	0	栗高同窓会から助成
5. 利 息	21	17	
6. 前期繰越金	138,679	138,679	
合 計	910,700	766,384	

支出

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
1. 総経会費	547,000 円	409,000 円	役員会 22 名 77,000 円 総会 67 名 332,000 円
2. 印刷製本費	50,000	33,530	総会案内、総会資料、会員名簿 会報、各種資料コピー代
3. 通信運搬費	110,000	105,585	郵送代 切手、ハガキ
4. 賞 品 費	50,000	45,773	抽選会賞品代
5. 雑 費	60,000	50,543	封筒、ラベル、コピー用紙、 振込手数料、会議室使用料ほか
6. 予 備 費	93,700	0	
計	910,700	644,431	
7. 次期繰越金	0	111,953	
合 計	910,700	756,384	

(3) 平成27年度監査報告

1. 監査実施年月日 平成28年6月4日
2. 監査項目 現金の出納に関する書類及び帳簿等証券
監査の結果、適正に処理・執行されていることを認めます。
会計監事 西村建二 (印)
会計監事 中西晴一 (印)

総 会 資 料（報告・議案）

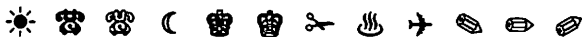
報告 1 平成 27 年度事業報告及び会計収支決算報告

(1) 平成27年度 事業報告

1. 幹事会（事務局会議）開催
平成 27 年 4 月 22 日（木）12:30～ さっぽろすみれホテル 9 名出席
2. 平成 27 年度役員会開催
平成 27 年 6 月 6 日（土）16:00～ さっぽろすみれホテル
22 名出席
3. 幹事会（事務局会議）開催
平成 27 年 8 月 6 日（木）10:00～ さっぽろすみれホテル 10 名出席
平成 27 年度結会・懇親会案内郵送（会員・恩師全員、来賓）
4. 平成 27 年度（第 22 回）総会・懇親会開催
平成 27 年 9 月 5 日（土）18:00～ さっぽろすみれホテル
会員、来賓（恩師含む）65 名出席
5. 会報（第 17 号）発行
平成 27 年 11 月 12 日（木）会員全員に郵送
6. 幹事会（事務局会議）開催
平成 27 年 12 月 10 日（木）12:30～ さっぽろすみれホテル 8 名出席
7. 栗高同窓会誌「栗窓」（卒業特集）平成 28 年 3 月 1 日付第 35 号
平成 28 年 3 月 31 日（木）役員に送付
当会から寄稿 堤 理事（45 年卒）
8. 会員及び恩師のご逝去
平成 27 年 9 月 故 西 村 孚 様（35 年卒）
平成 27 年 10 月 故 池 田 忠 之 様（30 年卒）
平成 27 年 10 月 故 神 田 實 様（36 年卒）
平成 27 年 11 月 故 佐々木 千 秋 様（恩師）
平成 27 年 12 月 故 土 門 幸 恵 様（36 年卒）
平成 28 年 2 月 故 駒 久 雄 様（29 年卒）
平成 28 年 7 月 故 鈴木 孝 夫 様（35 年卒）
平成 28 年 8 月 故 巖 波 三 郎 様（36 年卒）

議案 2 役員改選について

紙面の都合で省略しました。
新役員は8頁に掲載しています。



計 報　ご冥福をお祈りいたします

平成27年 9月	故	西村 孚様(35年卒)
平成27年 10月	故	池田 忠之様(30年卒)
平成27年 10月	故	神田 實様(36年卒)
平成27年 11月	故	佐々木千秋様(恩師)
平成27年 12月	故	土門 幸恵様(36年卒)
平成28年 2月	故	馳 久雄様(29年卒)
平成28年 7月	故	鈴木 孝夫様(35年卒)
平成28年 8月	故	難波 三郎様(36年卒)

議案 1 平成 28 年度事業計画及び会計収支予算

(1) 平成 28 年度 事業計画

1. 平成 28 年度役員会開催
平成 28 年 6 月 4 日(土) 17:00～ さっぽろすみれホテル
2. 平成 28 年度(第 23 回)総会開催
平成 28 年 9 月 3 日(土) 18:00～ さっぽろすみれホテル
3. 平成 28 年度幹事会(事務局会議)
年 3 回(4 月、8 月、12 月 予定)
4. 会報(18 号)の発行 平成 28 年 11 月中旬
5. 会員名簿の作成 平成 28 年 9 月上旬 総会出席者に配布
総会欠席者には会報と併せて郵送

(2) 平成28年度会計収支予算(案)

收入

科 目	予 算 額	前年度予算額	備 考
1. 年 会 費	206,000 円	225,000 円	総会出席 80 名 80,000 円 振込み等 140 名 126,000 円
2. 出席者会費	477,000	527,000	役員会 22 名 77,000 円 総会 80 名 400,000 円
3. 寄 付 金	20,000	20,000	総会来賓
4. 補 助 金	0	0	
5. 利 息	17	21	
6. 前期繰越金	111,953	138,679	
合 計	814,970	910,700	

支出

科 目	予 算 額	前年度予算額	備 考
1. 懇親会費	497,000 円	547,000 円	役員会 22 名 77,000 円 総会 84 名 420,000 円
2. 印刷製本費	80,000	50,000	総会案内、資料、会報、会員名簿
3. 通信運搬費	110,000	110,000	郵送代、切手、ハガキ
4. 賞 品 費	50,000	50,000	抽選会賞品代
5. 雑 費	60,000	60,000	封筒、ラベル、コピー用紙、 振込手数料、会館室使用料ほか
7. 予 備 費	17,970	93,700	
合 計	814,970	910,700	

栗高さつぽろ会役員

(平成二十八年九月から二年間)

顧問

亀岡 武(二七) 梨本 健(三二)

小柄三也(三三) 山崎市郎(三四)

会長

谷口榮一(三五)

副会長

正重 稔(二九) 伊藤尚人(三〇)

佐野至孝(三一) 福島 堅(三二)

古林幸男(三三) 杉本省三(三四)

本間喜彌雄(三五) ト部喜雄(三六)

猪熊輝夫(三七) 太田直行(三八)

理事

馳 了(二八) 高原市太郎(三〇)

定塚 清(三一) 小林栄樹(三二)

佐藤忠義(三三) 川口孝太郎(三四)

福田紀之(三五) 羽生聖子(三六)

中川 昇(三七) 伊藤 進(三八)

黒澤 晶(四四) 堤 益三(四五)

白川洋三(四六) 鳥庭健二(四七)

幹事

平野博昭(三五) 渡部拾子(三五)

矢野寄子(三五) 向井地春行(三六)

加藤静江(三六) 三浦文子(三六)

伊藤茂之(三七) 土門由記(三八)

荒川美和子(三八) 藤原 隆(四二)

関 美智代(四七)

会計監事

小笠原典子(三八) 中西晴一(四五)

(注) 幹事は事務局を担当
(*三八卒理事は、大志民氏から伊藤氏に交替)

栗高同窓会役員(抜粋)

会長 本田 諭(四一)

副会長 山崎信治(四三) 久住八郎(四三)

月輪淳裕(四七) 衣川秀敏(四八)

岡山典弘(五〇)

会計監査 丸山紘司(三七) 松下早苗(五三)

事務局 佐藤 裕(四八) 伊藤幸秀(六一〇)

村山登美江(四六)

栗高同窓会東京支部役員(抜粋)

会長 桂 正洋(三七)

副会長 松本洋幸(四〇) 楠 文利(四二)

太田見知代(四三)

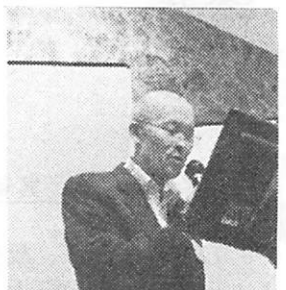
事務局長 奥田芳博(四四)

会計監事 元田豊治(四五) 岡崎栄子(四五)

◎盛り上がったカフオケの特集



総会の様子
36年卒の面々



北海道栗山高等学校の概要

(総会当日配布の説明資料から)



1 学校の概要

(1) 在籍生徒数

<H28. 5.1現在>

学 年	男子	女子	合 計	前年比
第1学年	45	19	64	-14
第2学年	42	32	74	-2
第3学年	32	41	73	-1
合 計	119	92	211	-17

(2) 出身地域別生徒数

<H28. 5.1現在>

	1 年	2 年	3 年	合 計	% (前年比)
栗 山 町	43	42	33	118	55.9(+4.6)
由 仁 町	2	10	12	24	11.4(-4.0)
長 沼 町	0	1	1	2	0.9(+0.0)
南 幌 町	8	10	5	23	10.9(-0.1)
旧 栗 沢 町	4	2	3	9	4.3(-0.5)
そ の 他	7	9	19	35	16.6(-0.1)
合 計	78	76	74	211	

※その他の内訳

1年(7)・・・タ張 1、岩見沢 3、浜頓別 1
早来 1 札幌 1
2年(9)・・・タ張 3、岩見沢 6
3年(19)・・・タ張 1、岩見沢 18

(3) 平成27年度進路状況

	受 験 先	男 子	女 子	合 計
進 学	国公立大学	0	0	0
	私立大学	11	3	14
	私立短大	1	3	4
	高等看護専門学校	0	1	1
	専門学校	9	10	19
進 学 準 備		0	0	0
就 職	公務員	1	0	1
	民間(自営含)	14	10	24
	未 定	4	4	8
合 計		40	31	71

私立大学 北海学園大学(2) 北星学園大学(2)
札幌学院大学(5) 北海道科学大学(2)
酪農学園大学 北海道情報大学(2)
短期大学 札幌大谷短期大学 北翔大学短期大学部(2)
札幌大学女子短期大学

就職希望者については求人状況に左右されてしまう面もあるが、進路未決定のまま卒業していく生徒がないよう、いかに指導・支援していくかが課題である。

2 特色ある学校づくり

(1) 学習指導・教育課程上の特色

- ア 基礎基本の学習を定着させる少人数指導やT.Tの実践
- イ 管内配置のALTを活用した英会話など語学感覚の育成
- ウ 学年主導により全学年で朝学習を実施

(2) 生徒指導

- ア スクールカウンセラーの活用
- イ 「教育相談週間」を年2回設定し、全教員による生徒全員面談を実施
- ウ 校長による生徒全員面談を実施

(3) 生徒会指導

- ア 熊本震災募金等ボランティア活動への積極的な参加

(4) 進路指導

- ア インターンシップへ2学年全生徒が参加、成果発表会の開催
- イ 栗山版キャリアノートを活用した、体験的なキャリア教育の実施

(5) その他

- ア 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業研究指定校
 - (ア) 地域の人材を活用したくすりやま塾の開催
(6月22日町長を講師に迎え第2回を実施)
 - (イ) 小中高合同体験学習発表会の実施(12月3日予定)
 - (ウ) 子育て中の母親と栗山高生徒との座談会の実施
 - (エ) 次代の親づくりのための出前授業を活かした「テーマ学習」の実施
- イ 栗山町立北海道介護福祉学校との連携協定締結(平成26年度より)
- ウ 富士大学との連携協定締結(平成28年6月)

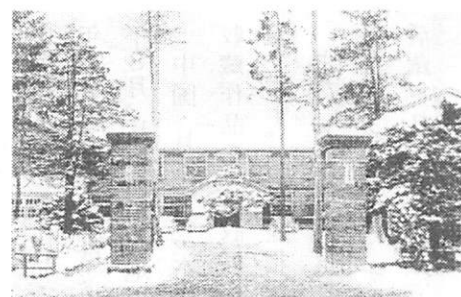
三町の人口・世帯の状況 (H28.8.31現在)

区 分	栗山町	長沼町	由仁町
人 口	12,373 人	11,285 人	5,429 人
男	5,791	5,463	2,585
女	6,582	5,822	2,844
世 帯	5,965 世帯	5,044 世帯	2,463 世帯

注) 由仁町は、H28.9.1末現在

校舎の変遷

初 代 校 舎



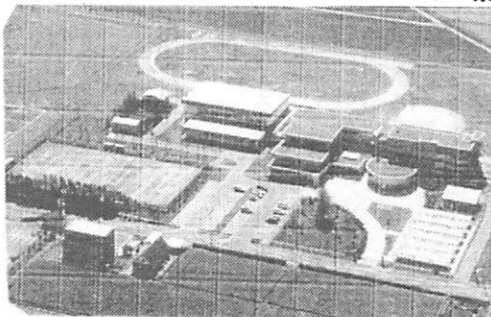
二 代 目 校 舎



三 代 目 校 舎 (現在)



校 舎 全 景



◇ 山田 太虚様 (本名 進 三二年卒)

栗山町角田出身、岩手大学卒業後、高校教諭を経て書道家の道を歩む。

傘寿 おめでとう
ございます。



活躍する同窓生

現在も書家として幅広く活躍され、同窓生の誇りであり、同窓会としても心強い限りです。
(各資料・報道等を参考としました。)



◇ 小原 道城様 (本名 昇 三三年卒)

栗山町雨煙別出身、北海道学芸大学卒業後、高校教諭を経て、書道家の道を歩む。

喜寿 おめでとう
ございます。



◎「書究文化書芸院」の開設と書誌「書究」の発行等

中国に度々訪れ、古典研究に力を入れると共に、「書究文化書芸院」を創設し、併せて「書究」を発刊、現在院長として書道の普及に力を入れ、毎年市民ギャラリーで開催の書展では、幼児から一般まで多くの作品を発表を通して、人材育成と書道の発展に尽力されている。平成二十一年北海道書道連盟理事長に就任、その他要職にも就かれる。

平成二十二年にこれまでの功績が認められ、「北海道文化団体協議会芸術賞」を受賞されております。

◎「小原道城書道美術館」を開設等

学生時代から全国的美術館巡りをされ、さらに中国や日本の書作品・拓本・骨董品等収集し、長年の夢であった「小原道城書道美術館」を2013年8月、札幌の中心地に開設されました。

中国・日本の書・水墨画・拓本・文房四宝などの収蔵作品を、常設展・特別展に分けて展示されており。また、若い時から毎日書道展や日本書道美術展などで多数入賞。その他、国内・国外など幅広く活躍され、国際交流にも積極的に貢献されるなど

◎傘寿記念書展など数多くの個展を開く

個展にも力を入れられ、節目では「還暦展」・「古希記念展」を開くなど、作品の量と質で書家から高い評価を受けています。

人生八十年の集大成として今年十月に「傘寿記念展」を開催し、55点の作品を発表、特に「長恨歌」等の大作は、高い評価を受けました。

又、十月二十二日開催の「祝賀会」では、著名な方々をはじめ約400名に及ぶ出席者から祝福が寄せられ、盛大に開催されました。

長年の功績が認められ、平成二十二年に「北海道文化賞」、平成二十四年に「文化庁地域文化功労賞」を受賞されました。そして、二十三年からは北海道書道連盟理事長に就任されています。

◎栗山町に2000万円を寄付

大学在学中に栗山町が運営する奨学基金を活用、その恩返しとして平成二十七年にご夫妻で栗山町長を直接訪問、「子供達のために役立ててください」と寄付をされ、栗山町からおおきに感謝されております。